

平成26年度 第2回千葉県博物館協議会会議 議事録要旨

日 時：平成26年11月6日(木)13:30～15:30

会 場：千葉県立現代産業科学館 会議室

出席者：委員 一 岡本委員(議長) 鵜澤委員 水嶋委員 細井委員 米本委員  
西田委員 高野委員

博物館 一美術館：安藤館長 中央博物館：川戸館長 現代産業科学館：  
小野館長 関宿城博物館：太田館長 房総のむら：黒川館長  
文化財課一永沼文化財課長 萩原学芸振興室長

【議事概要】

1 開 会

2 館長あいさつ 現代産業科学館長によるあいさつ  
(その後、日程説明・常設展視察)

3 議 事

(1) 学校教育への博物館の学習支援のあり方について

議長：今回のテーマは、現代産業科学館の学習支援についてです。今回からは、協議テーマについて、各館ごとの議論を行うこととなっておりますので、委員の皆さまのご協力をお願いします。

では、協議テーマについて説明してください。

現代産業科学館長：(配布資料説明・概要説明)

(担当職員よりパワーポイントを使用して、具体的な事例等を説明)

委員A：一言に学校といっても小中学校から大学まで多岐にわたる対象がある。現産館は、それぞれに対して綿密な対応を準備されているのに感心した。また、一方で、学校側がこれをどう利用するかという、もっとシステムティックな利用の仕方が検討されるべきではないかと思う。

委員B：館内を見て、楽しく子供たちに見せるという事が考えられたとても魅力的でおもしろい博物館だと思った。博物館は、ただ見るだけでなく実際に触れてみる・体験してみることが大事だと思うので、そういうことを常時やっていくことと出張講座のように出ていくことが大切だと思う。現産館は、いろんな所に出て行って様々な事業を展開しているので、マンパワーの点では、もう手一杯なのか、工夫によってはできる要素や余地はあるのかということを知りたい。また、受け取る側の学校がそれを積極的に活用するというのをどれだけ考えているか、またこの情報を知らない学校があるのか、PRという面からどのような工夫をされているのかも聞きたい。

現代産業科学館長：現在の状況を考えると、工夫することによってまだ展開できる余地はあると思う。新しい実験もいろいろ考えて行かなければいけないという職員の意識もあるので、今後ますます活躍できるのではないかと考えている。PRについては、年度当初に各学校にパンフレット等を送付している。近隣の学校などは、私や職員が直接学校に赴いて内容を口頭で説明し、理解をいただいている。また、マ

スコミ等にも適宜情報を流してPRに努めている。

委員C：大変すばらしい事業を展開されていると思った。また、今日は丁寧に説明していただき大変参考になってよかった。このような解説もあるとさらに良いかなと思った。「教員のための博物館の日」のように博物館と学校をつなぐ人材を育てる取り組みはとても大切なもので、一番生徒と接している教員を博物館側でも育てることを今後とも続けていただきたい。また、公民館とも連携して事業を行っているようなので、地元でも、活用するようPRに努めたい。

委員D：展示をととても楽しく拝見させていただいた。大人でも、不思議だなと思ったり、わくわくしたりすることがあるので、もっと県内の方にPRして利用していただき、未来を担っていく子供たちがもっと科学が好きになってもらえるような足がかりになり科学者が育ってくれば良いと思う。また、不思議の種のスマホを使っただけのガイドは、努力の甲斐があると思った。通常は500円くらい払って音声ガイドを借りるが、子どもたちもスマホを持っている時代なので、自分のスマホを使ってやってみようという所から興味を持ってもらうという点では、とても良い入り方だと思う。合同企画事業や地域連携事業の出張講座や団体の工作教室等をパワーポイントで見せてもらったが、資料では分からない部分がパワーポイントを使って見せてもらうことで様々な努力をされていることが良く分かった。同時にこれらの活動がもっと浸透して、活用して貰えたら良いと思う。多種多様で、前向きでよかったと思う。

委員E：私は何回もここにきているが、いつも子供を見るのが手一杯で展示を丁寧にみることができなかったので、今日はとてもためになった。子供たちには自分たちが見て体験するという部分がとても大切だと思うので、五感を使って体験できる現産館は子供の成長にとって良いのではないかと考える。自分の関わっている団体の子供たちはできるだけ連れてきたいと思う。また、郊外学習・遠足のおすすめプランも作られていたが、こういう形でやれば、子供たちも順番にいろいろなものが見られて説明も聞け、実験も見られるので良いと思う。それぞれの博物館でも同様なプランがあると、子ども会自体は県内各地にあるので、利用しやすいと思う。今回は、博物館自体が努力しているということがよくわかったので、これからは何度となく利用させてもらいたい。

議長：博物館と学校の連携については、今日は現代産業科学館を取り上げたが、他館も美術館なら美術館、歴史系の博物館なら歴史系の博物館の中で同じような取り組みをしている。現産館については、学校では実験ができないようなことが、ここに来れば学べる訳であり、実際に見せるということが子どもたちにとって重要だろうと思う。委員が言われたように、このような博物館側の努力を学校や教育委員会がどのような方針で取り入れていくのかということを知りたいが、博物館との連携の取り組みはあるのか？

文化財課長：学校に関する事業を持っている指導課など、関連する課にお願いして、現産館なら理科に関係する先生方の会議に参加させていただき、授業で使える学習キットなどの紹介・PRするなどの活動は行っている。また、授業の中で博物館の利用も各課にお願いしている。各館からも学校に個別にPRしている。

議長：博物館の取り組みに対して、学校側も取り組んでいるということなので、博物館の日の取り組みのように、博物館と学校を仲介する先生を育てていくことや学校の先生方と一緒に取り組んでやっていくということが重要なのではないかと思います。

委員C：公民館にいた時に、講座を考えることで非常に苦勞した経験がある。そういう意味で社会教育指導をする職員の研修などにも指導に行ってはどうか。各公民館でも講座の展開に行き詰っていて、新しい展開ができないという状況があるので、そういう所でも指導していただければいいと思う。

現代産業科学館長：ご意見ありがとうございます。今後、そういう所にも出かけていきたいと思います。そのために、私どもの館の学芸員も研修に行って新たな実験等の勉強をしている。ぜひ、声をかけていただければ行かせていただきたい。

委員A：学校と対応される学芸員やスタッフには学校勤務の経験がある方もいると思うが、学校人と博物館人は立場が違う。博物館人としての特別な教育や動機付けの場を設けているか。

現代産業科学館長：学芸員資格の講習に出てもらうのもひとつで、今年度は1人受講している。また、学芸員向けの専門講習にも出てもらいステップアップに励んでいる。

文化財課長：現産館だけでなく他の博物館にも学校現場から来ている職員がいる。そのように学校から来ている先生方には、学校との連携という部分で、特にご協力をいただいている。また、博物館現場で学んだことを学校現場に持ち帰り、学校に戻ってからも連携を深めていけるようにと考えている。

委員A：各館、それぞれ独特の目的や特徴があると思うが、今日の会議ではそれが職員間で勤勉に議論されて、パワーポイントでの説明に反映されたのではないかと思います。今後、各館でも同様のことを考えていただきたい。

委員F：常設展示は一度作るとなかなか交換ができないし、展示資料を造るだけでも多額の費用がかかってしまう。私は展示運営協力会会員と言う立場でもあるので、現産館と展示運営協力会が協力し、企業の宣伝も考えながら、スポット的な展示ができるのはとても良いと思う。ただ、企業は景気動向に左右されるので、そういう点ではお互いに苦勞されていると思う。展示はお金がかかるので、最先端のものを展示していければ良いのだが、すぐに変える訳にはいかない。そのような点を勘案しても展示に努力されていると思う。ただ、現産館は千葉の現代産業を県民に理解して貰うという立場もあるので、企業の紹介だけでなく、千葉の地元とどのように関係があるのかを県民に理解して貰えるかが工夫のしどころであろう。学校との連携については、この年はこの地域で博物館を使った授業を試みよう、というように、行政側が方針を示し、ある程度強制力を持たせないとなかなか利用が広がらないのではないかと。

議長：博物館側の努力は、ここにいる協議会の委員の中では共有できるが、なかなか県民に理解していただくにはまだしばらく時間がかかり、そう簡単には行かないだろう。ただ、出張講座のように逆に博物館側から出て行く努力は十分理解できるので、これからも一層浸透していけるように努力されていくことは必要ではないか。

委員F：博物館に来れば、千葉というところが、どういうところが、わかるという

ことが、もっとアピールできれば良いのではないか。例えば、県庁の新任職員研修に組み込んでもらうとか、教員の新採の研修で使ってもらうとかできるのではないか。

委員A：私は、本当は知事や議員にも博物館を回ってもらいたいと思う。

委員F：千葉県の中で科学技術表彰等があると思うが、県庁で表彰式をやるのではなく、知事に現産館に来て貰って、ここでやることによって県をさらにアピールできるし、それを目当てに来る来館者もいるのではないか。

文化財課長：県民の日に、チーバくんの誕生日をここでやったことがあるが、その時には知事にここに来て貰った。機会を見つけては、知事に博物館に足を運んで貰おうと思っている。また、職員の研修の話があったが、逆に博物館の職員が講座や講義に講師として出かけていく機会を県には作ってもらうようお願いしている。これからも積極的にこのような機会を提案していきたいと思う。今年度、現産館は、学校事務の新任職員研修で使用して貰ったという実績もあるので、なお一層、力を入れて行きたい。総合的な学習の時間と言う授業があるが、なかなか外にできることが厳しくなっているとこのことで、来館する学校も一時よりは全体に減っている。

議長：博物館側が館外に出て活動しようとしているのに、学校側が外に出て行かないというのは連携という点では非常に難しいが、そこを何とか協力してうまくやって欲しい。

文化財課長：学習指導要領にも博物館の利用促進が書かれているので、そのような点からも学校利用をお願いしていきたい。

委員A：個々の教員に博物館の利用をお願いするばかりでなく、予算とかもあるだろうが、年に何回か博物館に行くとかいうのを学校のスケジュールに組み込むことができないか。博物館が近くにある地域と無い地域では、地域による格差みたいなものがどうしても出てきてしまうので、そういう意味では機会均等を図る意味でも博物館の見学を取り入れる基本的な仕組みのようなものがあると良い。さっき、議員にも見て貰った方が良いという話をしたが、本当にこれが大切な教育であるという意味で、議員にも理解して貰うためにそんな話をした。

委員C：教育委員などの視察はないのか。

中央博物館長：中央博の場合、文教常任委員会が10月に視察に来館された。また、先だっては、教育委員の視察もあった。

委員C：各館の皆さんが一生懸命なさっているのに、このままだとどんどん予算が削られてしまうので、外に向けてぜひPRされた方が良い。

中央博物館長：教育委員の御理解は非常によく、高い評価をいただいている。

議長：では、そろそろこの議題についてはよろしいでしょうか。

## (2) その他

議長：他に何かございますか。

委員D：美術館に1点だけ質問。美術館の耐震改修工事は、9月で完成。オープンに向けて20億～25億円の予算があったと思うが、耐震工事を除いてのソフトの部分の進捗状況はどの程度あって、新規に向けてどういう進歩があるのか、そ

の辺の現状を教えてください。

美術館長：ソフト面で変わったところはない。耐震工事に合わせて施設改修として空調や外壁の塗り直し、LED ライトへの交換、トイレの改修、入口のモニター設置等がある。

委員 D：当初は耐震だけでなくソフト面での充実を図るという事で、より多くの予算がついたと記憶しているが、その部分の変更点について報告してほしい。

美術館副館長：来年、1月23日から全館を使用しての特別展を企画している。また、4月からは通常開館になるが、その時に浅井忠のコーナーを作ることになっている。

委員 D：2月の協議会は楽しみにしているが、浅井忠のコーナーにこだわっている訳ではない。予算取りの中でソフト面の話もしていると思うので、それなりの見える部分のソフト面の変化は必要ではないか。次回の2月の会議で説明いただきたい。

美術館長：基本的に財政が厳しくて、耐震改修工事と施設改修工事しかしていないリニューアルではなく、あくまで耐震改修工事が主体である。

委員 C：私も、リニューアルではなく耐震改修工事と聞いている。

美術館長：そのため、私どもはリニューアルではなく、再開館という言葉を使っている。

委員 D：状況はわかりました。ありがとうございました。

議長：それでは議事を終了し、事務局に進行をお返しします。

事務局：（閉会挨拶・次回案内）終了後、希望者は企画展視察。